

2 学期始業式・早く失敗し、早く学び、早く成長する

2021・8・26 校長 重枝一郎

将来、みなさんたちが羽ばたく社会は、何かを「決めて」、それを実践に移すことの連続になります。自らの意思をもち、多様な考え方や出会いながらのチャレンジが求められます。そこで、今回は何かを「決めて」の「決め方」ということについて考えたいと思います。

ところで、そもそも今の社会のことをいったい私がどのくらい語れるのだろうかと思いません。社会変化のスピードは世の中の実情を見れば明らかなのですが、そのリアルタイムの体験がない。もちろん今の教師という職業については語れますが、その他のことは語る自信がありません。そう考えると私が、みなさんに何が語れるのか少し怖い気がします。

今、社会はあまりにも加速度的に変化が予想されるため、「計画を立てることが失敗をばらむ」と言われています。確定事項を「決める」より、仮説を立ててアクションしながら学んで先に進むやり方が求められているのです。

こうした新しい時代を表すキーワードが「Agile（アジャイル）」と言うそうです。「Agile」を直訳すると、機敏な、素早いという意味です。チームにおいて、「早く失敗し」「早く学び」「早く成長する」という意味でつかわれます。私は、このような挑戦の仕方を「生産的失敗」という言い方もします。

このような社会の変化を背景に、学校でも、みなさんのキャリア教育や日常の授業、さまざまな活動等を「Agile」の考え方で経験させていく必要性を感じます。

進路選択など自分の進む道を探るのは大変なことだと思います。その際、「これだ！」と決めつけるのではなく、自分がやってみたいことのビジョンの中から、今の自分がチャレンジしたいこと、関心があることを見つけて、仮説を立てて進むことが大切だと思います。仮説を立てて、学んでみて、違っていたら方向転換すればいいのです。成長するとまた見える世界が変わります。ビジョンも変わります。そうしたら、また新たな仮説を立ててチャレンジすればいいのです。ということは、学校でもそれを繰り返しやる姿勢を習慣化させて、そうした学び方を会得させるのが大切だと考えています。

しかし、失敗を恐れず、チャレンジすることは、実はなかなか簡単なことではないと思います。そのために、みなさんや私たち教師のマインドを変える必要があります。

マインドセットには「硬直型」と「成長型」があります。硬直型マインドセットはチャレンジを恐れ、成長型マインドセットはチャレンジを楽しむことができるというものです。この成長型マインドセットを育むために欠かせないのは、「心理的安全」と言われています。失敗について率直に話すとき、罰せられたり、辱められたりすることがなく、チーム自体が人間関係の中で、そのリスクをとることがいいことであるという考え、またそれが許せる環境があることが重要なのです。

そのくらいチームが理解してくれていたとしても、それでも、チャレンジは誰でも不安を感じるものです。だから、チャレンジしている人に対し、圧倒的にリスペクトして寄り添い、「ナイスチャレンジ！」と声に出したり、笑顔で返したりすることが大切です。みなさんの成長を促すために、1 学期の終わりに「コミュニケーションについて」や「まわりの人に不快感を与える言動をしないこと」の話をしました。このことがこの「心理的安全」につながります。

さあ、「Agile」「成長型マインドセット」ふたつのキーワードを意識して2 学期を過ごし、一人一人が成長実感をもてるようになることを期待しています。